

玉川上水・内藤新宿分水散歩道計画



玉川上水は、羽村から43kmを経て内藤新宿まで届き、350年にわたって、四谷大木戸水番屋が江戸市中の水の拠点となっていました。次世代へ受け継ぐべき土地の記憶と誇りが、ここ内藤新宿に眠っています。近代上水道の先駆けを作った英知と努力を敬い、21世紀のまちづくりに生きる「水と緑の環」の象徴として、新宿御苑に沿う「玉川上水・内藤新宿分水」を整備します。

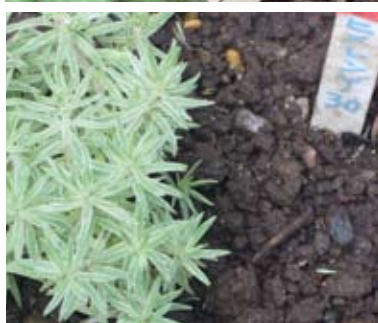
というようなことで、突如始まった「分水散歩道工事」ですが、あれよあれよという間に、道が掘り起こされ、水路が造られ、両岸が整備されて、今はいろいろな植物が植え込まれているところです。来年春には完成予定とのことで、新しく水の流れができるってわくわくします。でもでも、掘っくりかえされちゃった地中にいたセミくんたちはどうしたんだろうと思うと、ちよつと複雑な気分です。



行き止まり。それともここが水源なのかな



いろんなものが植え込まれています。ツワブキ、シャガ、カタクリ、フジバカマ、オミナエシ、キキョウ、ホタルブクロ、何種類あるんだろう？



水路を辿って新宿門へ出るとハナミズキが咲いていました

